

解説

建設工事に関する資格取得 — 推進工事技士への期待 —

西口 公二

(株)奥村組
建設本部土木事業部土木部次長



1. はじめに

現代は「資格の時代」ともいわれるほど多くの資格が存在している。これは、人間社会が発展するにつれ、その機能が高度化・複雑化し、また科学技術が進歩・専門化することにつれ、そのシステムを維持するために必然的な結果といえる。

資格は、個人の知識や能力を評価・認定された者に与えられるものであるが、資格の取得者がその知識や能力を社会のニーズに活かし、その使命を果たすことによってその意義が達成される。本稿では、奥村組の資格取得に関する取り組みや推進工事技士について紹介する。

2. 建設工事と資格

近年、公共工事の品質を確保することを目的に、有資格者を工事に配置させ、工事の施工管理を行うことを求めることが多くなってきている。そのため、公共工事発注においては、構造物の品質或いは工事の安全性確保のために、入札要件として有資格者の配置など、資格に対する要求事項

が多く見受けられるようになってきた。また、会社の技術力を計る物差しとして有資格者数が評価項目の一つとして使用されている。

建設工事は、その特性として、構造物の種類が非常に多く、それぞれが単品の受注生産であり、製造現場の状況が日々刻々と変化していくことがある。したがって、現場の技術者には変化する状況を先読みし、未然にトラブルを防ぎながら安全・確実に高品質のものを造ることが求められる。

そのためには、様々な工事に対し専門的な知識と経験を身につけた技術者の能力を資格制度により認定し、個々の技術者に社会的ニーズと責務を明確に認識させることが重要であると考える。

3. 資格取得支援制度

建設会社にとって、社会的ニーズの変化を敏感に捉え、会社のあるべき姿を見定め、その中で技術者を戦略的に確保していくことは技術力の確保という面から極めて重要である。このような観点から、建設会社には、社員に対して各種資格取得を奨励し、受験や受験講習会の費用についての補

助、社内講習会など受験者に対する教育、また、資格取得後のサポートなどの支援制度を設けているところが多い。

4. 奥村組の推進工事技士

奥村組の推進工事技士の資格者数は現在91名であり、土木系技術職員の12%を占めている。図－1に過去8年間の推進工事の受注実績を示す。年間の推進工事件数は15件程度であるので、工事件数から見た推進工事技士の取得率はかなり高い。

奥村組の推進工事への取り組みは古く、長距離推進など特殊な推進工事の経験者が多い。推進工事技士は推進工事に従事することは勿論のこと、

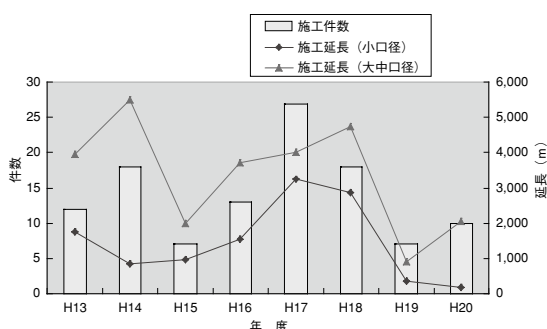
その他、1級土木施工管理技士、1級建設機械施工技士、コンクリート技士、甲種火薬類取扱保安責任者、測量士など各種の資格も有し、推進工事以外の様々な工事でも活躍している。

資格取得の目的は、先にも述べたとおり、有資格者の確保だけではなく、従事する技術者に専門的な知識を身につけさせ、技術レベルを高めることにより、品質を確保し、安全に施工を行うことの出来る技術者を育成することにある。奥村組では、資格を取得させ、現場で多くの経験を踏ませることによって、個人の技術レベルの向上を図っている。

5. おわりに

建設工事に携わる技術者に対する期待は大きい。技術者には、良質な社会資本を建設することは勿論のこと、工事を安全にかつ工期限内に完成させるという使命が与えられている。資格は、この様な期待に応えられる技術者の証として与えられたものであり、故に、技術の進歩と共に常に自己研鑽に務め、社会が求める使命に応えていかなければならない。

推進工事技士は、推進工事に関するプロフェッショナルに対して与えられる資格であり、自負を持って社会のために活躍していただきたいと思う。



図－1 推進工事受注実績



残暑お見舞い申し上げます



月刊推進技術 編集委員・編集室スタッフ一同